

JR東日本グループ経営ビジョン 「変革 2027」 に向けた魅力ある街づくり

2018年7月20日

東日本旅客鉄道株式会社
常務取締役総合企画本部長
喜勢陽一

JR東日本グループ経営ビジョン
変革2027

目次

1. グループ経営ビジョン「変革2027」について
2. 経営環境の変化
3. 「変革2027」の基本方針
4. 安全とサービスの向上
- 5- 1. 都市を快適に（JR東日本が目指す姿）
 - 2. 輸送サービスの質的変革
 - 3. 羽田空港アクセス線構想の推進
 - 4. グローバルゲートウェイ品川
 - 5. 竹芝ウォーターフロント開発
6. インバウンド戦略の推進

グループ経営ビジョン「変革2027」策定

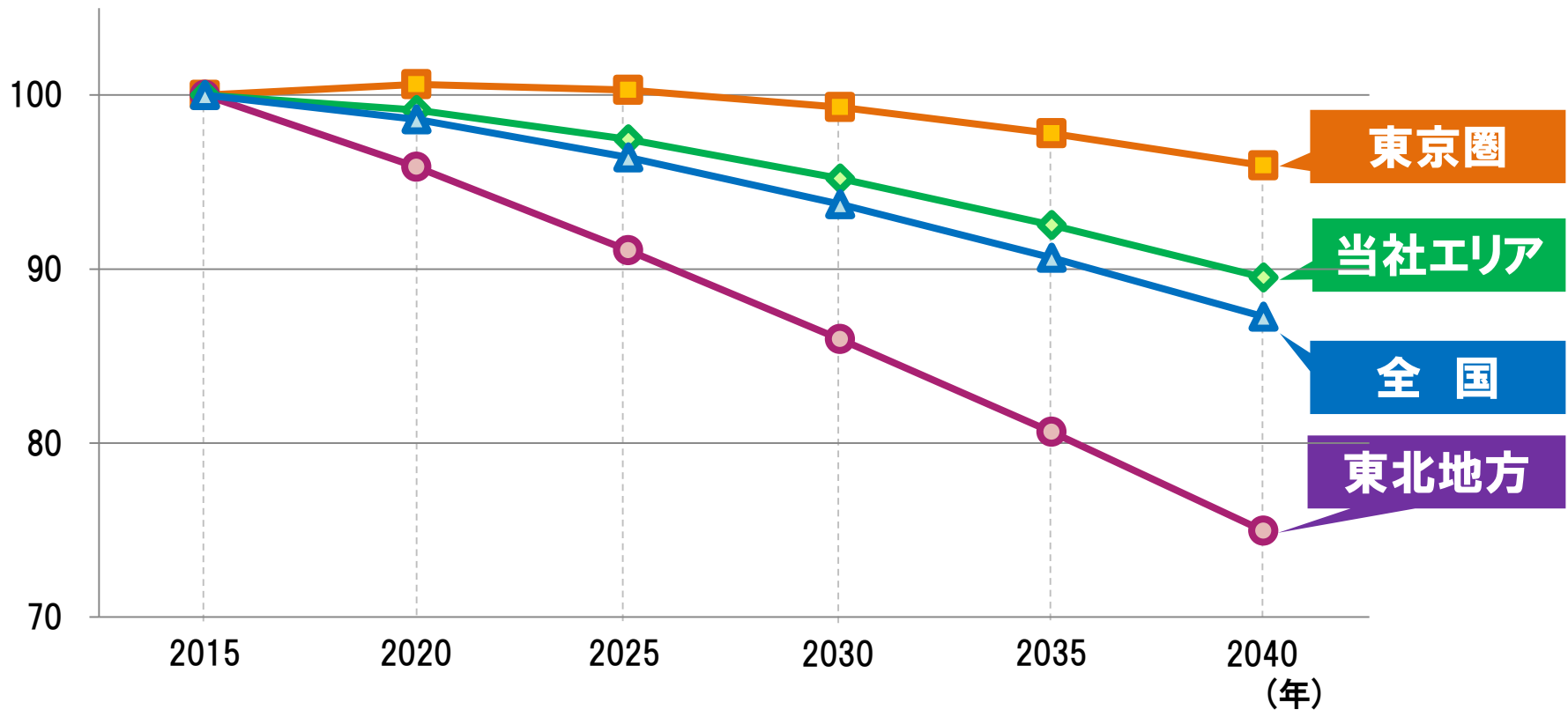
2018年7月3日発表



2. 経営環境の変化（人口減少）

東京圏（東京、埼玉、千葉、神奈川）は、
2025年以降、緩やかに人口が減少していく見込み。

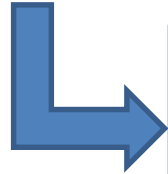
(2015年=100)



資料：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)より

3. 「変革2027」の基本方針

「鉄道のインフラ等を起点としたサービス提供」から



「ヒト(すべての人)の生活における『豊かさ』を起点とした社会への新たな価値の提供」へ

会社発足から30年間

起点

鉄道のインフラや技術・知見



鉄道の進化を通じた
サービスのレベルアップ



鉄道の再生・復権

転換

これからの10年間

起点

ヒトが生活するうえでの「豊かさ」



重層的で“リアル”なネットワークと
交流の起点となる駅等を活かし、
外部の技術・知見を組み合わせ
サービスを創発



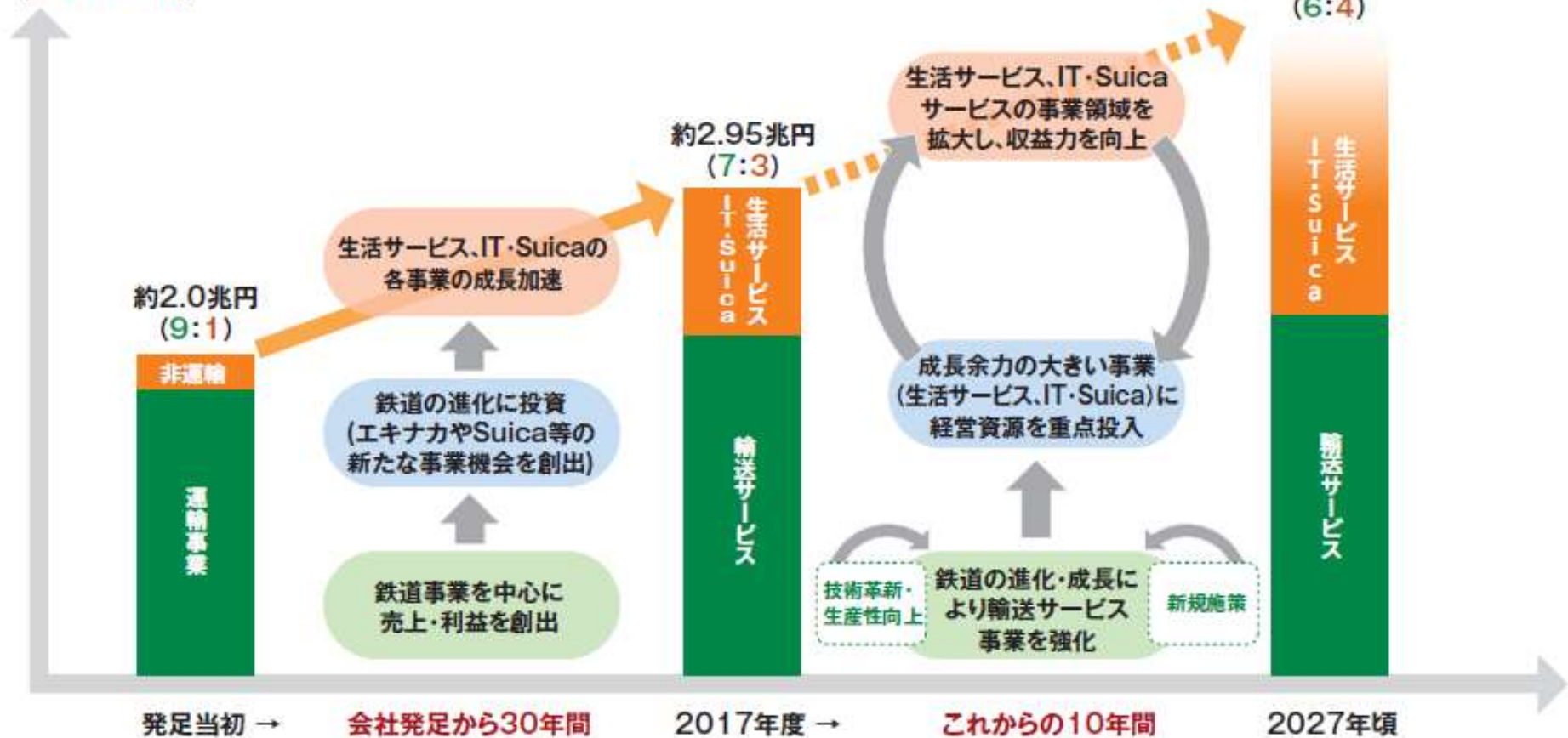
経営環境の変化を先取りした
新たな価値を社会に提供

3. 「変革2027」の基本方針

鉄道事業はJR東日本グループの「信頼」を支える重要な基盤

今後10年で連結営業収益を伸ばし、生活サービスとIT・Suicaを新たな成長エンジンとし、比率を全体の4割に高める。

連結営業収益
(輸送:輸送以外)



「安全」がJR東日本グループの経営のトッププライオリティ ～グループ一体で「究極の安全」に向けた具体的取組みを推進～

JR東日本グループが 原因の事故を完封



ソフト対策



ハード対策

より安全な駅ホーム ・踏切を実現

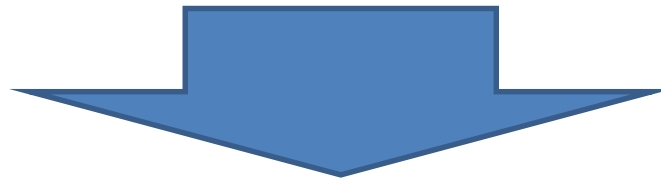


駅ホームの安全性



踏切の安全性

災害・テロによる リスクを低減



輸送サービス

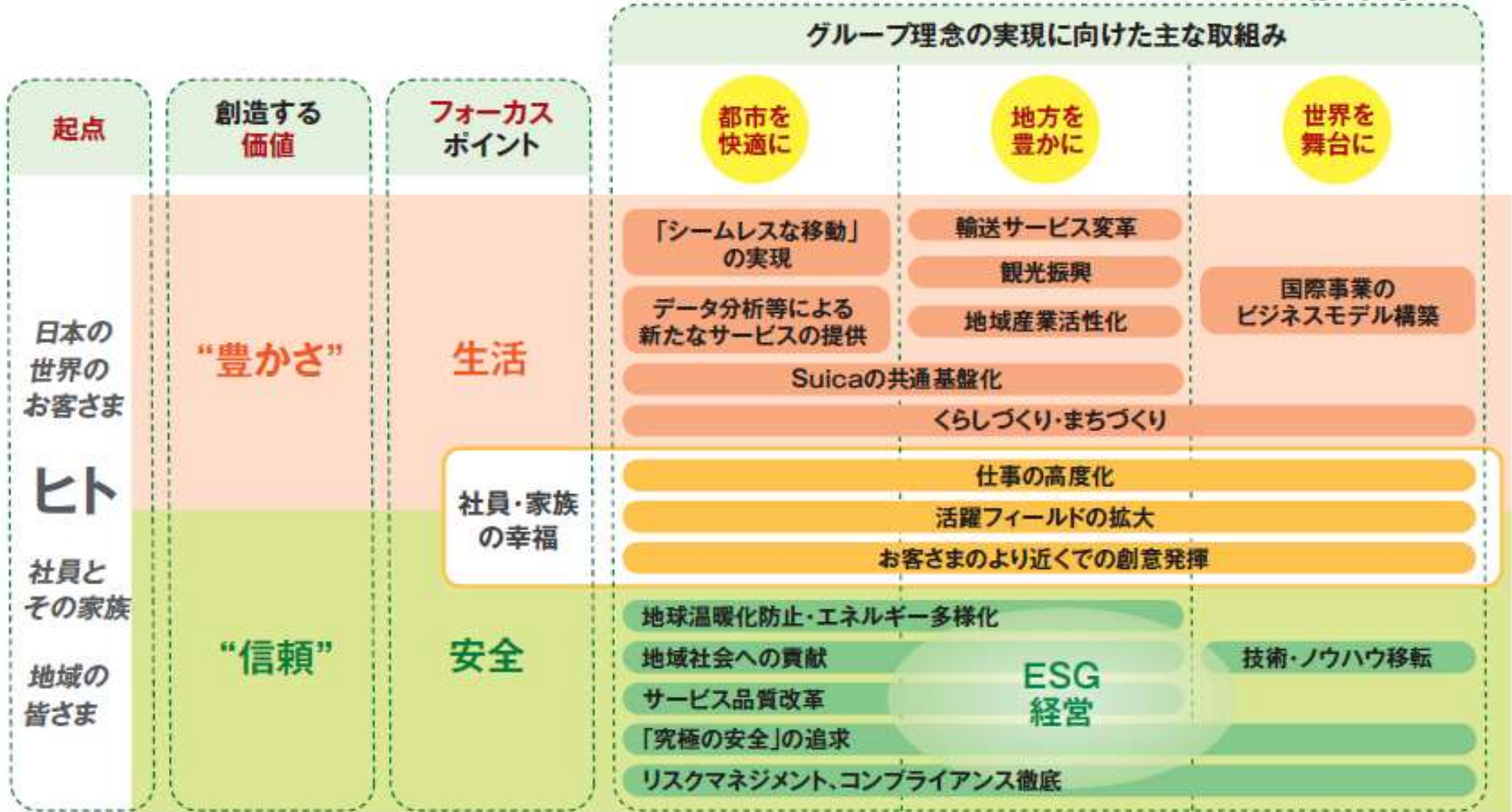
生活サービス

IT・Suicaサービス



5-1. 都市を快適に (JR東日本が目指す姿)

「ヒト(すべての人)」を起点に「安全」「生活」「社員・家族の幸福」にフォーカスし、都市と地方、そして世界を舞台に、「信頼」と「豊かさ」という価値を創造していく。



※ESG…Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治)の頭文字をとったもので、企業の持続的成長のための重要な要素

5-1. 都市を快適に（JR東日本が目指す姿）

都市を
快適に

目指す姿 お客さまがあらゆる生活シーンで最適な手段を組み合わせ、
移動・購入・決済等のサービスをシームレスに利用

方針

- ビジネスプラットフォーム拡充による多様なサービスのワンストップ提供
- JR東日本グループ主導による「シームレスな移動」の実現

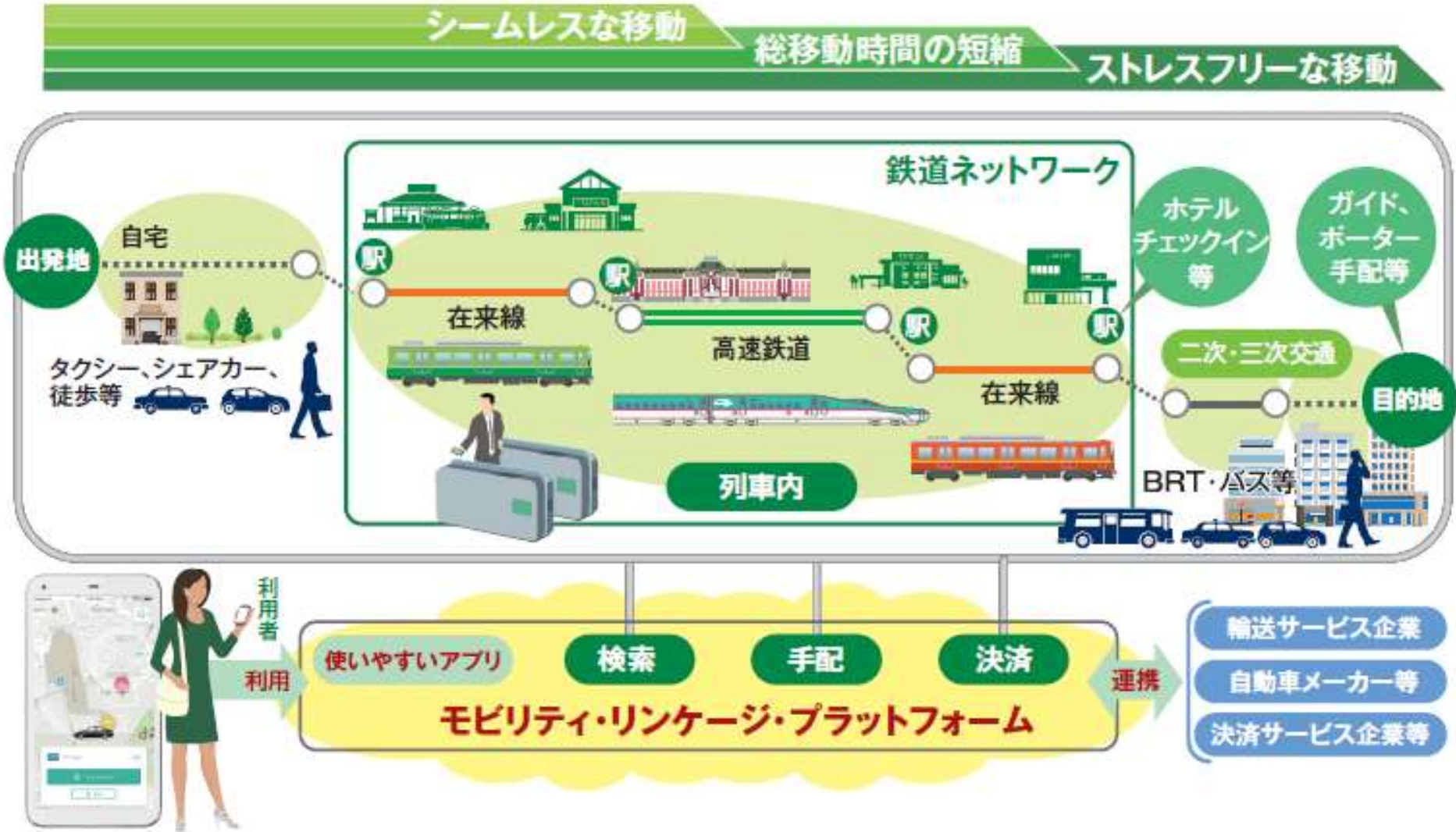
具体的な取組み

- 「JRE POINT」活用による**個別ニーズ**に応じた多様なサービスの提供
- 「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」による「**総移動時間**」の短縮
- 「安全・安定輸送のレベルアップ」を基盤とした**輸送サービスの質的変革**
- 日常生活の快適性や利便性をさらに高める「**くらしづくり(まちづくり)**」の推進
- 様々な決済手段との連携による**Suicaの利用機会の拡大**



5-1. 都市を快適に（シームレスな移動の実現）

■ 移動のための情報・購入・決済をお客さまにオールインワンで提供する「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム」により「シームレスな移動」の実現を主導し、総移動時間の短縮、「ストレスフリーな移動」の実現につなげていく。



5-2. 輸送サービスの質的変革

「安全・安定輸送のレベルアップ」をベースとして

「目的地を創る」、「駅を楽しく、魅力的に」、「移動を楽しく、快適・便利に」

➡ お客さまに提供する輸送サービスを質的に変革



安全・安定輸送のレベルアップ

5-3. 羽田空港アクセス線構想の推進

■主な効果

- 多方面からのダイレクトアクセスによる「シームレスな移動」の実現(時間短縮、乗換解消)
- 鉄道の輸送力増強(現状の約1.8倍)、リダンダンシーの向上による移動ニーズ(首都圏の各エリア~空港間)のさらなる増加への対応



新宿~羽田空港	所要時間	乗換
東京モノレール経由	約48分	1回(浜松町)
京浜急行経由	約43分	1回(品川)

東京~羽田空港	所要時間	乗換
東京モノレール経由	約28分	1回(浜松町)
京浜急行経由	約33分	1回(品川)

新木場~羽田空港	所要時間	乗換
東京モノレール経由	約41分	1回(天王洲アイル)

	所要時間	乗換
西山手ルート	約23分	なし

	所要時間	乗換
東山手ルート	約18分	なし

	所要時間	乗換
臨海部ルート	約20分	なし

5-4. グローバルゲートウェイ品川

グローバルゲートウェイ 品川 Global Gateway Shinagawa

世界中から 先進的な企業と人材が集い
多様な交流から新たなビジネス・文化が生まれるまちづくり

首都圏・都心アクセス
首都圏鉄道ネットワーク
魅力あふれる街へのアクセス

田町駅

JR新駅 (予定)

泉岳寺駅

JR品川車両基地跡地

品川駅

鳥瞰イメージ図



内観イメージ図



日本のターミナル

2027年リニア中央新幹線開業予定
日本各地へのアクセスが更に充実

世界へのゲートウェイ

羽田空港へのアクセス性
世界と東京を結ぶハブ立地

5-4. グローバルゲートウェイ品川

■世界中から先進的な企業と人材が集い、多様な交流から新たなビジネス・文化が生まれる「新・国際交流拠点」を形成する。



国際水準のまちづくり
最先端で世界から注目される都市基盤・機能・環境

JR東日本グループが挑む新施策のショーケース
当社のリソースを活用し、社会の変化へ様々な提案



賑わいのある広場・歩行者ネットワーク 質が高くユニークな空間



周辺地域とのつながり



水素社会への取組み



新駅での鉄道と二次交通の連携



MICE・オフィス 商業・文化施設 ホテル・住宅



スタートアップ支援 新たなアイデアを試すラボ機能

5-4. グローバルゲートウェイ品川

国際交流拠点の形成に向けたスケジュール

成長し続ける街

・東京オリンピック・パラリンピックを見据えた暫定利用と、その後の街びらきを契機として、国際交流拠点として成長し続ける街を目指す。

まちづくりの将来像を描き、先行して基盤整備

- 地区計画
- 土地区画整理事業
- 都市計画道路

日本の魅力発信

新しい街の魅力発信



《エキマチ一体開発》
※イメージ

国際交流拠点としての成長
《新・国際都市》

街びらき
(一部開業)



《ストリート型まちづくり》 ※イメージ



リニア中央新幹線開業 (予定)

現在

暫定利用

東京オリンピック・パラリンピック
新駅の暫定開業

5-5. 竹芝ウォーターフロント開発

◆計画概要

- (1) 浜離宮恩賜庭園への眺望や水辺の潤いなどの自然環境と交通の利便性を活かし、ラグジュアリーホテル、オフィス、商業施設を展開し、観光・ビジネスの新しい拠点に
- (2) 劇団四季の劇場とその周辺に屋外広場を設け、人々が集い、交流できる空間を創出
- (3) 地元・行政・企業等と積極的に連携し、竹芝エリア全体の賑わい創出に寄与



6. インバウンド戦略の推進

■ 首都圏を起点としたインバウンド需要の拡大と地方への誘客による地域活性化をめざす。

インバウンド収入の見通し(計画)		2018年度	2022年度	2027年度
輸送サービス	生活サービス	270億円	380億円	470億円
		150億円	220億円	270億円

アジアからの個人旅行客を中心にプロモーション強化

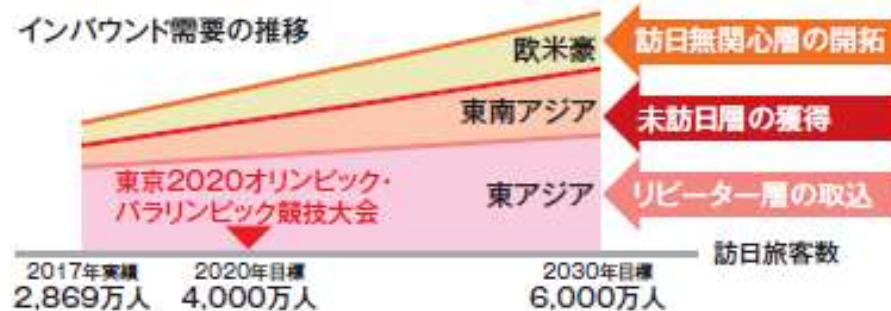
拠点・ネットワークの拡充



デジタルマーケティングとネット直販の強化・拡大



インバウンド需要の推移



首都圏から東北地方、信越地方へ

ストレスフリーな受入環境の整備

新幹線等の無料Wi-Fi



多様な決済サービスへ対応



使いやすいSuicaサービスの提供



風土・文化に触れる機会の創出

体験型商品の拡充



多様な宿泊サービス提供



ご清聴ありがとうございました。

